

かまにし

第85号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

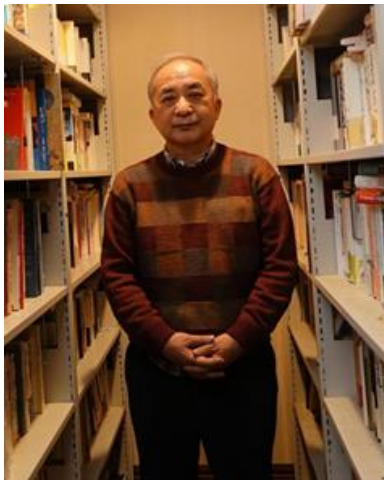
わがまちの顔

カフェをフィールドワークする

おおくぼ たかじ

大久保 孝治さん

大久保孝治さんにお会いしたのは、新年の正月気分が残る、二〇二三年一月六日十一時頃、池貝委員と青木委員とで西蒲田五丁目のご自宅でした。大久保さんは我々を家に招き入れ、お茶を入れてくださり、事前に略歴などの資料も用意してくださいました。昭和二十九年に当地に生まれ、一時、綱島や西船橋に住んでいらしたが、二人のお子さんが高校、中学に入学するタイミングで、ご両親と同居するために戻って来られたそうです。



大久保孝治さん

大久保さんは、女塚保育園、相生小学校、御園中学校、小山台高校、早稲田大学、同大学院を出て助手となり、放送大学を経て、四十歳で早稲田大学に戻られ、社会学の教授に成られたとのこと。社会学についてお聞きすると、

人と人、人と集団、集団と集団の関係を研究する学問とお答えになりました。「人生は演劇だ」というシエークスピアの言葉を引用されて、社会学の視点からは人は集団という舞台の上で様々な役割を演じているのだと説明されました。一般向けのご自身の著書として『君たちの今いる場所』(数研出版)と『日常生活の探求』(左右社)を紹介していただきました。

現在も早稲田大学で教えておられますが、地域社会と関連して「サードプレイス」についてお話しされました。自宅、職場・学校とは別の「第三の居場所」があるとよいという話でした。今は、他人に道を聞くことも難しい時代ですが、商店は会話が可能な場所、とくに滞在時間の長い飲食店は、店の

人と会話をしたり、居合わせた客とも会話できる場所、お気に入りのお店が出来ればそこが「サードプレイス」になるという考えです。大学の演習でカフェのフィールドワークをされているそうです。学生に個人経営のカフェに行ってみて、店内の様子を観察し(初級)、店の人と話をし(中級)、他のお客さんとも話をし(上級)。それをレポートにまとめて発表するのだそうです。「最初は緊張したけれど楽しかった」というのが学生たちの共通の感想だそうです。

蒲田の周辺には多くのよいカフェがあり、毎日、どこかのカフェに行っている、もし見かけたら声を掛けて下さい、「フィールドノート」というブログをやっている、具体的なカフェのことはそれを見て戴きたいと言われていました。

最後に、年賀状について質問すると、卒業生からの年賀状が楽しみですとのこと。だんだん彼らが成長して、さまざまなる人生の段階に差し掛かっていることが分かるからだと話されました。卒業生が蒲田にやってくる一緒にカフェ巡りをすることもあるそうです。

(取材 青木・池貝委員)

Civitas〔ラテン語、シーピタース、キーピタースとも言う〕

都市、都市市民、都市社会、都市文化の意。仏語の Cité、英語の City は、この語の派生語である。日本都市学会を創立した初代会長、奥井復太郎氏は都市研究の碩学として有名である。明治の初期、今の上野駅前にあった奥井陶器店に生まれ、その後、慶應義塾大学教授を歴任、そして同大学が創立 100 周年を迎えた時塾長に就任、それを記念して大学で教えを受けた研究会のメンバーが会い集い、その会に命名されたのが「シビタス」の会である。日本語ではこれをもじって「市美多寿」とも言った。語源からすると「社会の平和と安全」を願ったものであり、私はこの言葉に「永遠の発展と繁栄」を記したいと考えている。

昭和 51 年 7 月 24 日 慶應義塾大学 佐藤仁威

店内プレートに記載された店名の由来

店名の由来とお店の歴史
お店に入り左に進むと正面の壁に架かるプレートに店名の由来が記載されています。このシビタスの会がきっかけでこの店名になったわけですが、昭和四三年の蒲田東急プラザ開店時は六階で万惣蒲田店としてオープンしました。万惣は幕末に開店し日本で初めてメロンを販売した神田須田町の老舗果物店。フルーツパラーのホットケーキが名物で多くの方が来店しましたが建物老朽化のため平成二四年に廃業しました。万惣でホットケーキを発案した加茂さんには直弟子が二人いて、一人はシビタス社長の青木さん、もう一人は日本橋花時計（令和二年に閉店）の鳥居さんでした。現シビタス店長の黒川さんは、平成七年にシビタスに就職されました。以前は千葉市のホテルニューオカモトで腕を振りました。ホテルから地域の喫茶店へと転身したわけですがホットケーキをお客様に出したところ万惣の味のお客様に「生だ」と言われ、試行錯誤を繰り返したそうです。

喫茶店シビタス（蒲田東急プラザ四階）

万惣フルーツパラーのホットケーキ

店内プレートに記載されたシビタスのホットケーキの歴史

ホットケーキ

市美多寿のホットケーキの歴史は、昭和の初め神田須田町の果物店、宮内庁御用達“万惣”のフルーツパラーで生まれました。その支店を蒲田に開店して以来、皆様に万惣のホットケーキとして親しまれてきました。これが当店の前身です。最上質の小麦粉、卵、牛乳、砂糖、バターをブレンドした、あの純粋なホットケーキです。香り高い、ふっくらした風味を、ホームメイドのシロップでお楽しみください。

市美多寿・シビタス

平成二六年に改装した際に、万惣でホットケーキを社長に伝授した加茂さんの弟様が来店され「おいしかった」と言っていただけのが嬉しかったとのことでした。左に転記したのは、店名の由来を記載したプレートの並びに架けられたホットケーキのプレート文面です。伝統が伝えられた証です。

店から外を眺めると緑の門が素敵



カウンターの山盛りバナナ。お洒落と思うのは私達だけでしょうか？最高級バナナとのこと。



Café & Hotcake 市美多寿 と記載されたお店の看板

赤い柱と緑の梁どちらも美しい



開店以来変わらないもの
 黒川店長さんにお聞きしたところ、喫茶店なのでカレーやスパゲティを食べたいとおっしゃるお客様もいるそうなのですが、開店以来ホットケーキとフルーツ類を中心とした喫茶店であることは全く変わらないと話されていました。
 取材者は何回も来店するお得意様ではありませんが、お店の方針を守ることは大切だと思います。店長様の言葉の中にもアイデンティティという言葉が何回か出ました。「自分は自分であると自覚すること」シビタスらしさをこれからも続けてほしいと思います。
 入口の緑の門、赤い柱、緑の梁などは定期的な改装時にもそのまま引き継いで、シビタス独特の落ち着いた雰囲気を残しています。六階で開店したシビタスは四階に降りてきますが、門、柱、梁も一緒に降りてきたそうです。

変化して今に至っていること
 逆に変わったところを伺ったところ、店長さんはお客様の変化についてお話しされました。昔は複数で来店されることが多かったお客様が、今は一人でいらっしゃることとがとでも多くなつたとのこと。コロナの影響もあるかもしれませんが、確かに取材中に何人ものお客様を確認しました。そうした中で、社長さんが定期的な改装時にサプライズとして設置したのがカウンター席の水槽です。一人で来店された方にも目の前の小さな魚を見て和んでいただきたいという気持ちだそうです。ホットケーキが焼きあがるまでの一時、ゆっくりと自分だけの時間を楽しめる良いアイデアだと思いました。



カウンター席の前には大きな水槽が2つ設置

シビタス店頭に掲示されているホットケーキ写真等



ホットケーキとパンケーキ
 小麦粉に卵、砂糖、牛乳、水などを混ぜた生地を焼くという点ではどちらも同じです。始まりは紀元前の古代ギリシャという歴史があります。日本のホットケーキは大正一二年に日本橋三越でハットケーキとして提供されたのが始まりです。フランスのクレープや日本のお好み焼きもパンケーキと呼ばれることがあります。ホットケーキはバターとシロップ、パンケーキは生クリームやフルーツをトッピングすることが多いです。

シビタスでホットケーキを焼く銅板製の電熱器



シビタスのホットケーキ
 開店以来の銅板電熱器です。万惣はガスを使っていましたが東急プラザは電気しか使えませんがこの銅板で一ボウルの生地で二一枚のホットケーキを焼いているのを拝見しました。温度は二二〇度設定されていて、一日十ボウル位作られるようです。昔は二〇ボウル以上作っていたそうですが今は自身の体調を最優先とのこと。そんなわけで夕方訪れると今日のホットケーキは終了という表示があることもありますが、これからは日本独自のホットケーキ文化を残していただきたいと思いました。
 (取材 近藤・大良委員)

ご存知ですか？

蒲田駅西口一〇〇周年！

多くの人々が利用する蒲田駅。現在は、JR京浜東北線、東急池上線、東急多摩川線が乗り入れています。そんな蒲田駅の西口駅舎が令和四年で一〇〇周年を迎えました。

蒲田駅の歴史

蒲田駅は、一九〇四年（明治三十七年）四月十一日に開業しました。蒲田駅の開業には、旧蒲田村の運動が関わっています。旧蒲田村村長の月村惣左衛門は、村の繁栄のために駅が必要だと考えました。蒲田では、観光客誘致のために、蒲田駅の誕生が熱望されていました。村長と有力者たちの熱意が伝わり、蒲田駅が誕生したのです。開業時は、国有鉄道東海道本線の駅として開業しました。一九一四年（大正三年）には、京浜線（現在の京浜東北線の前進）が運行を開始しました。

蒲田駅西口

明治三十七年の蒲田駅開業後、しばらくは東口のみに乗降口がありました。



『国鉄 新旧蒲田駅』安西啓明作

ました。そのため、女塚・矢口地域の人々は、蒲田駅を利用するために、踏切を横断して東口から乗車しなければなりませんでした。時代が過ぎるなかで、蒲田駅の利用者も増加し、西口の人々は駅利用を不便に感じ、西口駅舎の新設を請願しました。そして、一九二二年（大正十一年）に西口駅舎が誕生しました。こうして西口駅舎は一〇〇周年を迎えたのです。

読者さまからいただいた

感想を紹介します

読者の皆様、いつも本紙『かまにし17』をご覧いただき、ありがとうございます。

先日、兵庫県にお住まいの方から、あるお電話をいただきました。

こちらの方は昔、蒲田西地区にお住いだったとのことで、現在はお知り合いの方から、『かまにし17』をお送りいただいているとのことです。

お電話では、『かまにし17』に出てくる地名を懐かしく思い、月号楽しく読んでいます。今後もしみにしています。」とお話しいただきました。また、前号（第84号）に掲載された坂口さんのお住いに出身地が近いそうで、活躍を応援していますとのお声もいただきました。

『かまにし17』が蒲田西地区を飛び出て、東京都外でも読んでいただいていること、こうして感想を届けていただいたことを大変嬉しく思います。

また、遠方の方へ『かまにし17』を共有いただいている方にも感謝申し上げます。

読者の皆様から、このようなお

声をいただけることは、当編集委員会の大きな励みとなります。今後も、充実した地域情報紙の作成に努めてまいります。

（事務局）

かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七-二二二
電話 3732-4785

蒲田西特別出張所管内

| | | |
|----|-----------|----------|
| 人口 | 男 | 32,114 人 |
| | 女 | 29,849 人 |
| | 計 | 61,963 人 |
| 世帯 | 36,506 世帯 | |

令和5年2月1日現在